

平成 20 年度 第 2 回意見交換会報告

日時：平成 21 年 2 月 21 日（土） 14:00 ～ 17:00

場所：ハピネス・ケア四谷（健康保険組合連合会東京連合会）

出席者（敬称略、順不同）： 山口靖（荏原実業） 五十嵐英則 岩橋尊嗣（新エポリオン） 山田由樹
祐川英基（三菱マテリアルテクノ） 小坂芳雄（環境管理センタ） 金子健（東京デオドラント） 中後晶久（荏原実業）
中野肇（新明和） 高山洋一（近江オドエア） 武居寛雄（リスニ） 吉栄康城（新コスモス電機） 伊藤英武
武山幸生（リスニ） 佐藤博（長崎国際大学） 前田康博（新菱冷熱） 村上栄造（朝日工業社） 小笠原利江（リスニ）
諸井澄人（環境技術研究所） 亀山直人（環境管理センター） 大林真人（北炭化成） 西栄子（味の素ファインテクノ）
永草康彦（三菱マテリアルテクノ） 大嶋理恵子（日本デオドール） 以上参加者 24 名（会員 20 名、非会員 4 名）

1. 講演報告 演題 「試料採取・測定現場での諸事例」 講師 祐川英基様（三菱マテリアルテクノ） 諸井澄人様（環境技術研究所） 亀山直人様（環境管理センター）

測定現場では、どのようなことに直面しどのように対処しているのかなど、プロならではの話を聞ける機会を作った。資格は取得したけれども、それが社会的にどのように役にたっているのか実感がわからない人、知る機会に恵まれない人なども対象とした。講師の方々には、それぞれの経験の中から特に注意すべきことやプロとして知っていて欲しいことなどもまじえて講演していただいた。テーマ及び講演の概要はつぎのとおりである。なお、総合司会は祐川様に担当いただいた。

諸井講師 ○「試料採取時の施設の状況に注意」

清掃工場では、月曜日に集荷量が多く臭気も発生しやすいという事例を解説し、発生現場における発生曜日、時間帯、工程に留意することの重要性を説明された。

○「試料採取時の水分に注意」

燃焼排気の排出口で、水分除去を考慮せずに測定したため、臭気指数、アルデヒド値が低く測定された事例を解説し、試料採取におけるマニュアルを遵守することの重要性を説明された。

亀山講師 ○「訴訟に関わった事例」

金属印刷事業所の臭気について、裁判の証人として出廷させられたケースを紹介し、その心構えと対処法を解説された。（対峙する側の弁護人質問は揚げ足を取るような質問が多いなど）費用面などを考慮すると、訴訟はなるべく避け、当事者同士の和解を勧めたほうがよいとのことであった。

○「高濃度硫化水素を確認した事例」

石膏ボードを含む廃材を受け入れていた安定型処分場の跡地利用を目的とした調査・測定における事例を解説された。硫化水素濃度が非常に高く最高値で 134000PPm の現場であった。硫化水素は 500ppm 以上になると、あまり臭いとして感じなくなるということを実体験され、危険な状況を実感されたとのことである。

祐川講師 ○「発生源違いの事例」

苦情原因の臭気発生源が、苦情者が特定していた事業場ではなく、その風上の事業所であった事例を解説された。試料を採取する際には、風の状況などをよく把握して採取場所をよく検討すること。2度手間にならないように注意すること。

○ 「同類の発生源が近辺にあった事例」

焼鳥屋と居酒屋が近接している事例で解説された。焼鳥屋の風上と風下の両方のデータを報告した。似たような臭気源があるときは解析に必要なデータも測定しておいたほうが良い。

○ 「1つのビルに苦情者と発生事業場が同居した事例」

同一ビル内で苦情者が洋服屋、原因者が焼鳥屋である事例を解説された。見積依頼を受け現場に出向いた際、原因が給排気の方法が適切でないことに気づいたので、その改善提案を行った。その結果、改善され測定依頼はなくなった。ビジネス上は得策ではないが、状況を把握し依頼者を指導することも臭気判定士の社会的役割の一つと考える。

○ 「突然で測定孔が付けられなかった事例」

印刷工場における燃焼排ガスの測定事例を解説された。測定口を付けられる場所が曲部しかなかった。臭気濃度のみの測定依頼であったが、最大着地濃度・距離の試算に必要なので、出来るだけ排出風量も測定しておくことを勧める。

2. 意見交換会

におい・かおり環境協会で開催している臭気強度に関する講習会に参加された方より所感を発表していただいた。標準サンプルを嗅いで臭気強度を評価してみたが、臭気強度2、3、4あたりのサンプルで逆転感を感じることがあった。無臭と臭気強度1のサンプルでは、感覚差がかなり大きいと感じた。とのことであった。

我々が良く用いる表現（日本語）の感覚の捉え方と、標準サンプルを嗅いだときの感覚のズレが多少あるようだ。これらは、今後トレーニングにより基準の感覚に近づくよう訓練していくことが、必要であろうとの意見が大勢を占めた。